

経済の視点を意識した「貧困」についての授業実践

春日部市立武里中学校 教諭 小谷 勇人

<授業の構想>

○既習の政治・経済の視点で公民的分野ならでの「貧困」へのより深い理解や解決へのアプローチを生徒が学ぶための工夫

⇒今まで公民的分野で学んできた政治(人権含む)・経済の見方・考え方を生徒が働かせ、多くの国際的な課題に向き合う必要がある。本実践は中でも「貧困」にスポットを当てて中学校卒業段階に近い時期の生徒なりの解決へのアプローチが提案できればと考えている。

1. 現行学習指導要領での「貧困」の扱い

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』の公民的分野の内容「D 私たちと国際社会の諸課題」の「(1)世界平和と人類の福祉の増大」の学習で身に付ける知識については、ア(イ)の「地球環境、資源・エネルギー、**貧困**などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解すること。」が関わる内容です。解説では「**貧困**に関わっては、先進国と発展途上国との関係や経済的な格差ばかりでなく、発展途上国間においても経済的な格差が広がっていること、**貧困**の背景には発展途上国においては人口の急増があることを理解し、それらの課題を解決し、人類の福祉の増大を図るためには、例えば、政府開発援助(ODA)をはじめとする我が国の国際貢献を取り上げ、経済的、技術的な協力が大切であることや、貧困の解決に向けての取組を行っていることなどを具体的に理解できるようにすることを意味している。」と記述されている。この記述により、「**貧困問題の解決に向けて、どのような取組が必要でしょうか?**」などの問いを立てて学習していくことになります。

2. 本時の授業について

導入では貧困線を用いて貧困の状態の定義を理解させます。その後、貧困率の高いアフリカを中心に本時の学習を行うことを伝えます。なお、地理的分野では、「21世紀はアフリカの時代と言われている理由は?」という主題で生徒に追究させました。生産人口、鉱産資源・レアメタルの多さなど経済成長に好ましい材料がたくさんあることを想起させます。そして、本時の問いである「**貧困問題の解決に向けて、どのような取組が必要でしょうか?**」を提示します。その後、3・4人グループで政治(人権含む)の視点と経済の視点に分けてサブサハラ地域の貧困問題の原因を追究させてまとめます。(地理・歴史の視点は事前に紹介)全体で各グループが考えた原因を共有した後に、アフリカには「失敗国家」が178カ国中ワースト10に7カ国もランクインしていることを確認します。この内容を受け、問いの解決を個人レベルで書かせて集約します。集約が終わった後には、ただ個人の寄付や国家として行う援助(「魚を与える」)の記述ではなく、技術指導や失敗国家にならないような支援(「魚の釣り方」)の記述をしている生徒の回答を取り上げていきます。また、せっかく直近で経済分野の学習を行っているので、経済成長とイノベーションの必要性について記述している生徒の回答も紹介します。その際、後発国が固定電話の普及がなくても携帯電話が一気に普及したリープフロッギングの話をしませす。最後にはアフリカ州をポジティブに捉えようと話してまとめとなります。

2/13 国際単元公開授業 3年2組社会科（公民的分野）学習指導 略案

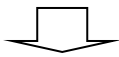
○本時の学習 (8/12)

(1) 目標

- ・サブサハラ地域の貧困問題を解決するために、効率と公正の観点から考察し、表現する。

【思考・判断・表現】

(2) 展開

	○主な学習活動・学習内容	・教師の支援と指導上の留意点 ◎評価	資料
活動の開始 10	○貧困とはどのような状態であるか確認する。また、地理的分野で学習した内容を思い出す。 全体	・教師の支援と指導上の留意点 ◎評価 ・地理的分野で追究した「21世紀はアフリカの時代と言われている理由は？」で学んだことを思い出させる。 	資料 『地域別貧困率』
〈学習課題〉 貧困問題の解決に向けて、どのような取組が必要でしょうか。			
活動の展開 ① 22	○政治（人権含む）の視点と経済の視点に分けて貧困問題の原因を考える。 グループ ○各グループが考えた貧困問題の原因を学級で共有する。 全体 ○「失敗国家」について学び、アフリカには「失敗国家」が178カ国中ワースト10に7カ国もランクインしていることを確認する。 全体	・机間指導の際は、現代社会の見方・考え方（個人の尊重と法の支配、民主主義、分業と交換、希少性など）を働かせることができるようにアドバイスを行う。 ・発表で出てきた内容は板書して簡潔にまとめる。 ・ただ単にお金を援助するだけでは貧困問題の解決に至る可能性が低い国家が存在していることに気付かせる。	スライド 『貧困問題の原因』 スライド 『失敗国家』
活動の展開 ② 13	○本時で学んだことを生かして個人で問いに対するの回答を考える。 個人 ○代表生徒の考えた内容を共有する。 全体 ○リープフロッキング現象について学ぶ。 全体	◎サブサハラ地域の貧困問題を解決するために、効率と公正の観点から考察したことを表現している。 【思考・判断・表現】 ・技術指導や失敗国家にならないような支援、経済成長やイノベーションについて記述している生徒の回答を中心に取り上げる。 ・発展途上国があつという間に成長を遂げる可能性があることを理解させる。	ミライシード オクリンク サイト 『リープフロッキング現象とは？』
まとめ 5	○「SDGs テーマ1 貧困をなくそう」について自分が考えたことや学んだことを書く。次時は紛争や難民問題を学習することの確認をする。	・本時で分かったこと、考えたことを具体的に記述させるようにする。	Jamboard 私の SDGs ゴール

政治（人権含む）・経済の視点からの追究

<例1>

アフリカの貧困問題の原因を追究しよう！

政治(人権)の学びの視点	経済の学びの視点
<ul style="list-style-type: none">・長期にわたる独裁政治を行う国家が多いから・情勢への不満から内戦が勃発する・教育が行き届いていない ⇒優秀な人材が育たない	<ul style="list-style-type: none">・人口の増加+経済が発展しない⇒働く人が増えていくのに対して働ける企業が少ないから・経済成長のための資源が少ない・インフラの整備が行き届いていない

独裁政治を行う国家が多いことに注目していることは、この後の展開で出てくる「失敗国家」にもつながる話となっている。注目したい点は教育の意義に触れている点である。インフラに触れている点は財政の学習を行ったことによって出てきたと考えている。

<例2>

アフリカの貧困問題の原因を追究しよう！

政治(人権)の学びの視点	経済の学びの視点
<ul style="list-style-type: none">・アフリカは長期に渡る独裁政治を行う国家が多いから	<ul style="list-style-type: none">・モノカルチャー経済・物流インフラが整っていない・人口増加・教育されていない人々が多く働ける人が少ない

一番の注目は「物流インフラ」のワードである。道路や電車の有無などが国の経済成長につながることを理解している記述と考えている。教育されていない人々が多い点も指摘できている。

<例 3 >

アフリカの貧困問題の原因を追究しよう！

政治(人権)の学びの視点

・ 1960年のアフリカの年がくるまではアフリカは多くの国がフランスなどのヨーロッパの国々の植民地だった。そのため、最新の技術など取り入れられていなかったため政治的にも経済的にも世界に遅れを取ってしまったため貧困問題が起こってしまった。
独裁政治が起こっていた。

経済の学びの視点

- ・ 途上国では人口急増に経済の発展が追いつかず、多くの人々が貧困に直面している。
- ・ 教育が不十分な分、教養やビジネスの知識がなかったりするため、人材活用が上手くいかず経済発展が見込めない。
- ・ 経済が発展しないことで外国からの投資も進まない。
- ・

経済が発展しないことで外国からの投資も進まないという記述はまさに経済単元を学んだからこそ出てきた記述であると考えている。また、教育が不十分な点が経済発展につながらない理由を具体的に記述できている。

<例 4 >

アフリカの貧困問題の原因を追究しよう！

政治(人権)の学びの視点

- ・ アパルトヘイト(南アフリカ)
- ・ 独裁政治
- ・ 奴隷問題や民族問題から起こる紛争(政治の不安定)
- ・ 人身売買 (特に女性)

経済の学びの視点

- ・ モノカルチャー経済
- ・ 不公平な取引
- ・ 先進国からの支援に依存している

「不公平な取引」というワードが興味深い。フェアトレードの用語は地理的分野のアフリカ州の学習ですでに触れているが、国際貿易を経済単元で簡単にだが学んだことが影響していると考えられる。

〈発問〉「貧困問題に悩むアフリカにとって、本当に必要な支援とは何でしょうか」分析

<例1>

<p>質の良い教育(お金や物資を送っても時間が経てば使い切ってしまう元の状態に戻り根本的な解決にはならないから)</p>	<p>↑ お金やインフラを整備してあげてもそのお金で銃を買ったりインフラを整備した地域を獲得するための争いが起こってしまうので、実体化している財を提供するのではなく公共サービスを提供すべき</p>
--	--

<p>教育こそが根本的な解決につながると考えている記述。「効率」では解決にならない。</p>	<p>「財」が争いの原因であると考えていて、公共サービスを充実させようと意見している</p>
--	--

<例2>

<p>まずは、内戦・紛争が早期決着してくれることを祈る。そこから人材の提供や施設の設置を行う。又、子どもたちに教育を施して字を理解できるようにした後、「働き方ガイドブック」的なものを配布して読み込ませて労働環境を整える。その際にインフラ整備のための資金提供をする。ワクチン配布や食料提供を継続して行う。</p>	<p>↓ アフリカへの支援活動を行っているNPOやNGOへ寄付をする。日本でアフリカ人の教育をし、アフリカ人でも働ける仕事を探し、アフリカ人が働ける場所を増やす。</p>
---	---

<p>「働き方ガイドブック」の発想は中学生ならではのものと考えている。教育の重要性である。</p>	<p>日本でもできる支援の形を意識して記述している。技術支援につながる内容である。</p>
---	---

<例3>

<p>アフリカには、政治や経済がいい方向に行く循環がないのが問題だと思うから、まず国連組織などが教育、企業面などで他国からの支援が届く仕組みを作ること。</p>	<p>↑ 教育機関の確保が大切だと思う。自国の現状をよく理解して取り組めるようにしなければならない。そのためには今の政策をやめ、先進工業国に習って、法律の改正などをしていくべきだと思った。 一番変えないといけないのは、アフリカなどに住む人々の思想を変えていかないといけないと思う。(戦争を解決の手段にしないようにする)</p>
--	---

<p>一番の注目点は企業として支援の形ができることに触れている点である。</p>	<p>↓ 法律の制度や思想の部分で教育の重要性に気付いて記述できている。</p>
--	--

<例4>

<p>それぞれの国に合った(食料が大事なところは食料を、水が必要なところは安全な水を)支援の仕方ですべて安全で必要最低限の生活が行えるようになるような支援を行う。</p>	<p>← 左の記述内容が、私が今回の授業で最も生徒に到達してほしかった記述である。支援の形が本当に必要な内容、それもそれぞれの国の実態に合ったものでなければならない。 このような内容を全体で共有し、生徒の考えに変容があるように導きたい。</p>
---	--